

## 平成 30 年度 公益財団法人羽島市地域振興公社の事業報告書

### I 業務に関する事項

#### 1 概況

当公社は指定管理者として、文化センター・中央公民館、老人福祉センター羽島温泉、歴史民俗資料館、老人福祉センターの管理運営を行いました。

公社の目的である「市民サービスの向上促進、市民福祉の増進と文化の振興」に一層努めるとともに、平成 30 年度は第 3 期（26 年度から 30 年度）の最終年度（老人福祉センターは本年度が最終年度）であり、お客様・利用者の視点に立って、サービスの向上と更なる効率的な管理運営の推進に、取り組んでまいりました。

#### 2 各施設に関する事項

##### (1) 文化センター及び中央公民館指定管理事業

文化センター及び中央公民館は、市の芸術及び生涯学習の拠点となる中核施設として平成 10 年 10 月 1 日に開館し、平成 30 年 10 月に開館 20 年を迎え、記念事業を挙行しました。

指定管理に関する業務は以下のことです。（指定管理者協定書より）

##### 【文化センター及び中央公民館に関する業務】

- (ア) 文化センター条例第 3 条に規定する業務
- (イ) 使用許可等に関する業務(※ 文化センター、中央公民館共通事項)
- (ウ) 利用料金の収受に関する業務 (※)
- (エ) 施設及び設備の維持管理に関する業務(※)
- (オ) 指定事業及び自主事業の企画提案事業の企画・運営に関すること(※)
- (カ) その他教育委員会が必要と認める業務(※)
- (キ) 前各号に掲げるものの他、甲又は乙が必要と認める業務(※)

##### ①文化センターの管理運営に関する業務

文化センターの利用件数は 2,850 件(対前年度 8 件の増)、利用者数は 188,196 人(対前年度 9,655 人の減)であり、使用料収入は 36,107,080 円(対前年度 2,017,360 円の増)でありました。（平成 31 年 3 月末時点 以下同じ）

貸館事業は、多様化するニーズに応えたり、他事業との連携を意図的に仕組んだ

りすることで、サービス向上に努め、利用拡大・利用率向上につなげています。

柔軟な対応とともに、安全安心を第一とし、長期延命のための機能維持と技術革新への対応に係る改修事業を計画的に進めています。平成 30 年度には、非常用発電機整備、空調機器自動制御システム更新、空調設備改修(ポンプ更新・一部オーバーホール)、大小ホール舞台機構設備改修(昇降装置、制御システム等)を市に実施していただきました。また、コンサートピアノのオーバーホールを実施しました。平成 30 年度はサインウェイを実施し、今後ヤマハ、バーゼントルファーの順に実施します。職員自ら改修に取り組んでいる内容としては、LED 化(ホール通路、非常階段、会議室全室)、机椅子修理、駐車場照明その他管理を行い、経費削減とともに安全安心を確保しています。

なお、402 特別会議室の改修計画に関しては、一部特別感を失いますが、利用拡大・利便性の向上において抜本的な改善が必要と感じ、市と相談をして進めます。

#### ②中央公民館の管理運営に関する業務

中央公民館の利用件数は 1,482 件(対前年度 77 件の減)、利用者数は 39,642 人(対前年度 1,659 人の減)となりました。中央公民館利用収入は、4,275,750 円(対前年度 90,890 円の減)でありました。

市、県等の関係機関や市民団体、地元企業の研修、会議等において、幅広く利用いただいています。また、市民団体や他施設と協働した、メディアカーニバルや 2 階テラス、調理室や和室、展示室について、施設機能を生かした多目的活用を継続しています。中央公民館全会議室の LED 化が完了しました。また、307 研修室の改修を公社で行い、P C 視聴覚室としての機能を残しつつより利用いただけるよう電源関係、室内の仕様を若干変更しました。

なお、管理運営業務については、減免団体(羽島市文化センター条例施行規則第 9 条第 1 項及び第 2 項に規定する団体)に関する施設管理業務を公益目的事業、それ以外の団体に関する施設管理業務を収益事業としました。

### (2) 文化センター企画事業に関する業務(自主企画事業)

企画業務は大きく、5 部門に分けて実施しています。開館 20 周年という特別な枠で実施した事業もこの 5 部門に位置付けて実施しました。(別紙事業報告参照)

① 市民鑑賞事業：特定分野に偏らない事業展開、質の高い首都圏等での公演(本物の公演)を招致し開催します。市内外からご来館いただけるよう事業展開をすることにより、当センター独自のオリジナリティを最大に発揮します。

②市民参加型事業：幅広い世代が定期的継続的な事業に気軽に参加でき、安価に楽しむことのできる多種多様な事業を展開します。

③市民主体事業：市民・団体の発表の場となる事業展開をします。市民が主体となる創作コンサート(市民ミュージカル等)を開催し、共に創り上げ、共に文化を発信し、高めていきます。

④市民提供型事業：子どもたちへの本物の舞台鑑賞事業、地域・学校・福祉施設等への出張コンサートを行うアウトリーチ活動を展開します。

⑤育成団体事業：文化センターを拠点に活動・練習する団体を育成し、連携・協働して事業を行い、文化を発信します。

自主企画事業の入場料収入は、44,485,452円(対前年度9,504,752円の増)でした。なお、①～⑤の事業の内、社会貢献的・伝承継承的・育成の公益的な事業を公益目的事業、それら以外の公演等を収益事業として区分けしました。

平成30年度の自主企画事業の成果は次のとおりです。

#### ① 公益目的事業について

公益事業では、開館20周年記念事業として記念式典及び特別展示とメディアカーニバルでの演奏会、寄席を行い、広く市民の方に楽しんでいただきました。

本年度事業は、特にホールが社会に果たす役割を重視し「地域・教育・福祉関係との協働、各種団体との連携」事業を20周年とかわらせて展開しました。

市民ミュージカルは、3年間の集大成として効体ホールで実施。150名の皆さんが計17回の練習を重ねて「美女と野獣」を演じ切りました。内容については、全国の専門家の方からも評価いただくことができました。

また、第9回特別感謝事業に位置付けた「未来のきみへ」は、前年度より準備をし創り上げた市内全小学校との協働事業です。全体プロデュースを來住尚彦氏に依頼し、企画内容・練習計画及び学校との緊密な連絡調整を図り、全小学校と一緒に作り上げることができました。また、十六文化財団の助成をいただきました。現在、10年後に事業として、小学生のお手紙を預かっています。

#### ② 収益事業について

収益事業は、音楽ホールとしての特徴をより前面に出して、20周年にふさわしいより質の高い演奏を文化センターで体験いただけるよう進めました。

20年間培ってきた関係において「劇団四季全国公演 Song & Dance」、「佐渡裕指揮日本センチュリー交響楽団特別公演会 2019with 反田恭平」が開催できたことは今後の企画展開においても大きな成果であったと感じています。また、20周年の記念事業と関わらせ、市民の要望が高かった坂本冬美氏、高嶋ちさ子氏の公演を開

催できたのも、信頼関係と粘り強い交渉の成果であったと感じています。

企画推進にあたって、広報販売宣伝活動の範囲を拡大したことで公演の日程やそのもち方等について何度も協議を重ね、経費削減につなげるよう対応しました。

### (3) 羽島温泉指定管理事業

昭和 53 年 3 月に開館以来「温泉利用者の健康増進と心身の保養の場」として広く利用されています。

利用者数は 189,739 人（対前年度 4,585 人の増）で、その内訳は、有料利用者が 178,269 人、身体障がい者などの無料利用者が 11,470 人でした（累計利用者 10,291,543 人）。利用料金収入は 29,477,000 円（対前年度 620,300 円の増）でありました。

台風接近による休館、猛暑による入館者の減少で 7 月は入館者数、利用料金収入とも前年度対比 80%台でしたが、近隣の温泉施設がリニューアル工事のための休館や廃業した施設もあり、10 月頃から利用者数が増え収入の増となりました。

業務につきましては、受付及び利用料の徴収の他、老人健康相談（毎月第 2 水曜日）、貯水槽等（温泉タンク、給湯タンク）及び配管清掃（年 2 回）を実施するとともに、浴槽内の残留塩素濃度測定回数増やし衛生管理に努めました。

なお、毎月 2 回の休館日には、職員による浴場清掃及び施設の保守点検・環境整備に努めました。

また、平成 31 年 4 月 1 日からの利用料金改定に伴い、羽島市内在住の方へ利用証交付手続きを 12 月から開始しました。

次に主な取組み内容としましては

#### ① 「利用者感謝日」等企画の実施

- ・「風呂の日（毎月 26 日）」回数券購入者に優待券を進呈し販売促進を図る。  
年間累計売上冊数は 10,195 冊（対前年度 44 冊の減）、売上金額は 17,367,000 円（対前年度 73,000 円の増）2,000 円の回数券が約 70.4%を占めました。
- ・9 月に、市内 75 歳以上の高齢者へ長寿を祝して粗品（タオル）を進呈しました。
- ・平成 25 年度から取り組んでおります 9 施設の連携事業「西美濃湯めぐり倶楽部」にて 4 月から 10 月まで「西美濃湯めぐり倶楽部・御湯印めぐり」を実施し 4,119 人の方が参加されました。
- ・羽島温泉のホームページ及びパンフレットをリニューアルしました。

新幹線岐阜羽島駅、道の駅「柳津」「クレール平田」、不二羽島文化センター、市内のコミュニティセンターなどに配布し PR に努めました。

- ・ふるさと納税「元気な羽島応援寄付金特産品」として返礼品の参加・協賛をしました。(3件)
- ・「羽島市健幸ポイント事業」に協力しました。(温泉亭食事割引券提供 154件)

## ② 健康に関する事業

- ・医師による老人健康相談を、毎月第2水曜日に開催しました。
- ・地震・火災等による避難訓練、人命救助について市危機管理課及び消防署の方を講師に迎え講習会を実施しました。
- ・健康講座を企画し健康づくりを題材にした落語会、心の健康として三味線の演奏などの講座を開催しました。1月4日には箏演奏で迎春を楽しみました。

## ③ 「羽島温泉の管理運営に関するアンケート調査」の実施

12月6日 547人に実施。回答者465人(回収率約85%)でした。

内訳は、「職員の対応」では、満足・やや満足との回答が84%ありました。従業員が親切で、対応がよく気持ちよく利用できるのご意見も頂いています。やや不満・不満の回答は6%でした。

「施設管理」については、満足・やや満足との回答が74%ありました。清掃が行き届いているのご意見も頂いています。やや不満・不満の回答は16%でした。

平成31年4月1日からの利用料金改定についての意見(市外在住の方)が多く寄せられていました。

なお、常時、意見箱を設置し要望・意見等の把握に努めています。

## ④ 地域とのかかわりなど

- ・7月 くわばらこども園の園児入浴体験に協力。
- ・10月 中学生の「職場体験」として生徒を受け入れ。  
双樹園交通安全教室に協力。
- ・11月から玄関前と中庭にイルミネーションを設置。
- ・毎月、西美濃湯めぐり倶楽部9湯施設のパンフレットを相互に提供。

公益目的事業としては、老人福祉センター羽島温泉の老人の健康増進を図るという設置目的に基づき、市内在住の75歳以上の老人及び身体障がい者に関する施設管理事業を公益目的事業、それ以外の利用者に関する施設管理事業を収益事業としました。

#### (4) 温泉亭指定管理事業

温泉亭は、来館者が、安価で利用しやすく、楽しみながら食事をし、有意義な時間を提供するために開設するものであり、麺類（うどん・そば・きし麺）、卵かけごはん・カレーライス・寿司・みたらし団子等を販売しました。

また、かき氷やお茶・サイダー・ノンアルコールビール等の飲み物、ごぼう茶、卵パック、おはぎ、草もち等の物品販売にも取り組みました。

売上金額は13,961,670円(対前年度654,620円の減)、事業支出は11,536,555円(対前年度177,136円の減)でありました。

温泉亭指定管理事業は、収益事業としました。

これからも当市の貴重な資源・財産であります“温泉”を市民の皆様とともに「親しまれ・喜ばれる“羽島温泉”」をめざしながら健康増進に寄与できますよう努めてまいります。

#### (5) 歴史民俗資料館指定管理事業

##### 1 平成30年度の利用状況

	平成30年度	平成29年度	増減
入館者数	8,349人	11,505人	△3,156人
入館料額	1,280,900円	1,274,100円	6,800円

入館者数の減少の要因は、平成29年度まで無料であった「美濃竹鼻まつり」期間中の入館料を昨年度より有料にしたことがあげられます。

##### 2 平成30年度の事業報告(企画展、映画のつどい、資料の収蔵、その他)

###### ○企画展1

①テーマ：「駅前日本劇場の生涯展」

②期間 平成30年4月1日(日)～6月17日(日)

③期間中の入場者数 3,810人

名鉄岐阜駅前にあった日本劇場が昭和27年以降、28年4ヶ月にわたり上映してきた2,826本の全番組を調査した結果をポスターと共に展示しました。一映画館が生涯に上映した全作品を調査した類例は過去に無く、興行の実態や映画フィルムの流通、観客の好みの変化などが具体的に分かる資料となることから、番組調査結果は冊子として残しました。

###### ○企画展2

①テーマ「権田一成コレクション 疾風！嵐寛寿郎展」

②期間 平成30年6月30日（土）～9月17日（日）

③期間中の入場者数 1,032人

一昨年末に、江南市在住の権田一成氏より千点を超える映画資料の寄贈を受けたことから開催しました。権田氏は長年にわたり嵐寛寿郎のファンクラブの副会長を務めておられたこと、ビデオの創成期に映画のビデオ化事業をしておられたことから、大変貴重なポスターや絵画を集めておられ、これらの資料に関心がある熱心なファンを全国から集めることができました。

また、期間中の7月1日（日）には、嵐寛寿郎の当たり役となった昭和2年公開の無声映画「鞍馬天狗」を弁士付きで上映しました。

#### ○企画展3

①テーマ「羽島の織物 美濃縞展」

②期間 平成30年9月29日（土）～12月16日（日）

③期間中の入場者数 1,962人

江戸時代から明治時代にかけて農家の副業として、羽島市とその周辺の市町村で織り伝えられてきた美濃縞の歴史を糸見本や生地見本に加え、美濃縞伝承会会員の作品とともに展示しました。

美濃縞の知名度は高く、三河や知多方面から美濃縞の研究者や実践者が多く来館されました。

#### ○企画展4

①テーマ 「昔のくらしと道具展～羽島市発展のあゆみ～」

②期間 平成31年1月5日（土）～3月17日（日）

③期間中の入場者数 1,362人

毎年、小学校の社会科学習及び「総合的な学習の時間」を支援できるよう開催しています。今回は羽島市の、都市開発やインフラ整備などのあゆみを調査し、展示しました。市内の全小学校に来館していただきました。

#### ○映画のつどい

毎月、第2土曜日に開催、平成30年度は年間で1,583人の鑑賞者があり、岐阜県内はもとより、愛知県、三重県など遠方からの来館者がありました。

#### ○歴史民俗資料・映画関係資料の収蔵

・年間を通して資料の収集・収蔵の業務を行っています。一年間の収蔵状況は次の通りです。

歴史民俗資料	1,112点	期間 H30.2.1.～31.1.31.
映画関係資料	5,080点	期間 H30.2.1.～31.1.31.

## ○その他の事業

### ・マイコレクション

市民の皆様の作品や民俗資料などの各種コレクションをロビーで展示しています。平成30年度は「絵手紙展」、「円空彫と立体和紙展」、「徒然百景展」、「万華鏡展」を開催しました。

### ・古文書学習会(年間11回)、夏休み親子歴史教室を開催しました。

年間を通して歴史民俗、映画関連の資料の収蔵と展示を行い、資料として価値のあるものを未来に伝えていく役割を担っていることから、歴史民俗資料館事業は公益目的事業としました。

## (6) 老人福祉センター

昭和49年6月に開館以来、お年寄りが孤立することなく心身共に健全で楽しく過ごしていただく場として広く利用されています。

平成30年度、施設の利用者数は、開館日数292日で入館者は29,126人(対前年度823人の増)。その内、入浴利用者は11,444人(対前年度541人の増)で、有料入浴者は9,437人、利用料収入は943,700円(対前年度44,000円の増)でした。この増は市内民間浴場施設の廃業によることが原因と考えられます。

主な事業につきましては、当センターの自主事業として「教養講座」「シルバー大学指導者養成講座」「健康相談」の3事業を実施しました。

### ① 教養講座

「折り紙、スポーツ吹矢、笑いの体操、音楽リフレッシュ、健康フィットネス、美容と健康、つるし雛」の7つの教養教室開催に加えて、「ボディケア、花水木、ストレッチ、悠画、気功、ひまわり北体操、習字、茶道、押し絵、歌謡塾、筆ペン・ペン習字、三味線」といったサークル活動に対する支援を通じて、高齢者の健康増進と教養の向上、趣味の活動を通じた交流の場づくりに努めました。

### ② シルバー大学指導者養成講座

羽島市老人クラブ連合会の協力の下、単位老人クラブ幹部等を対象とした「健康長寿」「健康体操」の指導者養成講座を開催し、各地域高齢者への普及活動を促すべく取り組みをしました。

### ③ 健康相談

医師・看護師による高齢者の心身の健康に関する個別の相談に応じるとともに、低額な料金での入浴の提供により、利用者の自主的な健康管理を促すとともに、

ロビーではセンター利用者による作品展示及び音楽の活用など、健康で安心した生活に資するべく努めました。

この他、羽島市老人クラブ連合会への支援、指導者養成講座受講者に対して、各単位老人クラブへ受講内容の普及を助言しました。

施設・設備の維持管理面につきましては、市による茶道室北側外床修理を行い、センターでは非常照明修理、集会室天井張などの修理を行いました。築後 44 年を経て老朽化が進む施設の維持管理に努めております。

以上、これからも高齢者の生きがい、健康づくり及び教養の向上を図るため、各種活動やレクリエーションを行う場として施設を提供するとともに、各種相談に応じ、高齢者福祉の向上に寄与するために設置された施設であることから、老人福祉センター指定管理事業は公益目的事業とします。